

立教185年
10月号

新企画
教学研究の扉

みちねとこ

〔特別寄稿〕

旧統一協会問題を考える
天理教宗教事情調査研究会

特別寄稿

旧統一協会問題を考える

天理教宗教事情調査研究会

2022年7月8日、奈良県の近鉄

大和大学駅前で、参院選の街頭演説中の元首相が殺害されたという痛ましい事件が起きた。その後、この事件はマスコミを通して政治と宗教、宗教団体と宗教2世の問題としてクローズアップされることとなった。

旧「世界基督教統一神霊協会」(以下、旧統一協会)、現在の「世界平和統一家庭連合」(以下、家庭連合)については、「全国霊感商法対策弁護士連絡会」(以下、全国弁連)がホームページの声明文の中で、「献金勧誘行為や信者獲得手法について繰り返し違法である旨の判決が下されている統一協会やそのダミー組織の活動について支持するような行動は厳に慎んで頂きたい」と注意喚起している①。

また、宗教2世の問題については、新聞などで山一徹也容疑者の複雑な家庭環境が明らかになるにつれて、マスコミやネット上で取り上げられるようになった②。

今回の事件が起こる以前は、旧統一協会の問題がマスコミに取り上げられることは少なくなっていた。しかし過去には、天理教も宗教法人への勧誘によって少なからず問題を抱えたことがあった。お道に信仰する者たちは信仰心が篤く、熱心なうえ、純朴なことから、旧統一協会のターゲットになっていた。そして、勧誘されたまま行方が分からず、家に戻らなくなってしまう教会長子弟や信者子弟への対応に苦慮してきた。

本教への影響

旧統一協会が教内で問題化したのは昭和56(1981)年ごろである。当時、天理本通りでは統一協会員による花売りやアンケートによる勧誘が行なわれていた。実際に調査してみると、すでに昭和四十七、八年ごろには天理大学や管内学校に偽装サークルが設けられ、若者たちを対象にサークル活動を装って、統一協

会という名前を明かさない勧誘が繰り返し行なわれ、徐々に若者たちの中に浸透し始めていた。

昭和51年ごろには天理市内に拠点が設けられ、本格的な勧誘活動が行なわれており、大学生以外にも、天理で看護師、保育士などを目指して学ぶ人たちが勧誘のターゲットにされた。なかには家に帰らず、失踪する学生も出ていた。

昭和63年、旧統一協会の活動が親里のみならず全国各地に及んでいることが見えてきたため、全教会・布教所にアンケート調査が実施された。

アンケートからは以下のような実態が浮かび上がってきた。

- 教会長が信者からの相談を受けても適切な対応ができていない。
- そのため、未解決のまま泣き寝入りするケースや、親の信仰の問題として論議されるだけのケースが多かった。
- 教会長に他宗教を批判することへの抵抗もあったため、直接的な手段が講じられなかった。

また、キリスト教の牧師からは以下のような情報提供があった。

- 天理教の若者たちは信仰心が篤く素直なために、統一協会にとって有力な人材供給源となっており、統一協会は天理教のことをアベル教団と呼んでいた(アベルとは自分たちに従順に従うものを指す言葉)。
- 統一協会をやめた信者たちに話を聞くと、所属していたところの約1割は天理教の関係者と言っている。また、キリスト教の牧師に天理教の子弟が説得され、救出された事例がかなりあった。

牧師たちも相談を受けるなかで、統一協会の中に天理教の信者が非常に多いと感じていた。

そこで、翌年の平成元(1989)年に、この問題を専門に取り扱うプロジェクトチームを立ち上げるようになった。

それが「天理教宗教事情調査研究会」である。同会では、同年4月から統一協会問題

研修会を実施するとともに教内者を対象に相談窓口を設け、「全国弁連」に参加するようになった。また、「日本脱カルト協会」へは、前身の「日本脱カルト研究会」が1997年に開催した「第1回救出カウンセリング講座」から参加している③。

旧統一協会の活動と霊感商法

2015年に文化庁の承認を得て「世界平和統一家庭連合」と名称を変更した旧統一協会は1954年、韓国ソウル市で文鮮明(1920-2012)によって設立された。日本宣教は1958年から始められ、1964年には宗教法人の認証を得ている。同年、「全国大学連合理研研究会」(略称「原理研究会」、CARPとも称される)を設立し、学生を中心に信者を獲得するようになる。早稲田大学や東京大学をはじめとする大学を舞台に、「聖書に興味はありませんか」とサークル活動を装って勧誘を繰り返し、

学生たちを「原研（原理研究会）」に引き込んだ。研修は合宿生活を通して行なわれるため、家に帰らない学生が増加し、1962年には「原理運動対策父母の会」が結成された。これが1967年に「親戚かせの（原理運動）」として新聞に取り上げられた。社会問題となった日本のカルト問題の原点である。一方で、旧統一協会は1968年に「国際勝共連合」を設立している。

1980年代になると、街頭や戸別訪問に際して「伝道トーク集」を作り、伝道すべき人と伝道すべきでない人を選別させていた。中高年の女性には「姓名判断」と称して声を掛け、宗教であることを随って組織的に勧誘するようになる。関心を示した相手には「ビデオセンター」での受講を勧め、青年には「フリーデイズ」「スリーデイズ」をはじめとする合宿形式のセミナーで教義を教え込み、人信へと導く。中高年の女性には霊能者を装った信者が「家系図診断」をして家系の因縁や先祖供養の必要性を説き、大理石の

婚も行なわれる。特に不幸な歴史関係にあった国や民族同士はと理想的であり、旧統一協会の国際結婚は最も理想的とされる。韓国男性と日本人女性との結婚は「韓日祝福」といい、これにより結婚して渡韓した日本人女性はおよそ7千人に上る。こうした結婚は言語や生活習慣が異なるだけでなく、自分で選んだ相手との結婚でないため、生活には多くの困難が伴うが、彼女たちはどのような苦難があっても、それは朝鮮半島を植民地支配した日本人の贖罪のためと信じて暮らし続けている。

その一方で、信仰に疑問を持ち、子供を連れて帰国する人もいる。渡韓して特に農村部に暮らす女性たちの中には困窮生活を強いられ、内部誌「本郷人」などにより日本に伝わり、全国奔連や「全国統一協会被害者家族の会」にも相談が寄せられているという³⁰。

旧統一協会は、人間は原罪だけでなく、道徳的罪、連帯罪、自犯罪という罪を背

負っており、精算しなければ死後は地獄に堕ちると教える。信者は贖罪のため伝道・経済活動に励み、また自分の贖罪だけでなく先祖の罪をも精算するため、「先祖解怨」として無理をしても献金する。この活動を続けなければ自分は地獄に堕ち、親も死んで地獄に堕ち、先祖もみんな地獄に堕ちて苦しむ、二度と這い上がる事ができないと教える。信者にとっては、死後の霊界に因することが最大の関心事であり、教えに従って活動し献金もしてきた。しかし、途中で旧統一協会をやめることは地獄に堕ちることを意味し、その恐怖があるために、やめた後に病气やけがをされると、やめたせいだと考えてしまう³¹。

日本人が旧統一協会に入信すると、多くの場合、合同結婚式に至り、生涯、献金によって韓国の文フファミリーとその幹部たちの生活を支えることになる³²。

無原罪の「再臨のメシア」と自称する教祖・文鮮明が死去した後、代わって教団の総裁となった妻・韓鶴子は「本当

なプロジェクトを展開し、旧統一協会とは異なる様相を呈している。実体を知らずにイベントに参加し、気がついたときにはすでに旧統一協会に入会していたという事例が多くある。

旧統一協会の教義は、聖書を独自に解釈したものであり、人類史を、この世に神の支配を取り戻す（復讐）の歴史と捉える。その経典を「原理講義」という。

「創世記」に記された原罪の由来は、「原理講義」の「堕落論」の中の、エバと堕天使ルーシエル（サタン）との霊的墮落、つまりエバが堕天使ルーシエル（サタン）と性交して汚れ、自分の犯した行為に恐ろしくなったエバはアダムを誘惑して性交を行ないアダムも汚れ、二人とも罪人（原罪）となった。以来、この原罪（人類が罪人となった原点）が「血統」「遺伝」を通じて全人類に連綿と伝わってき

た。旧統一協会のいう友好団体「持っている」といえば、国際勝共連合、天宙平和連合（UPE）、平和大使協議会、世界平和連合（FPP）、世界平和女性連合、原理研究会（CARP）、世界平和超宗教超国家連合、日韓トンネル研究会、世界平和教授アカデミー、世界言論人会議、国際教授友好協会、SHINZEN（しんぜん）などがあり、その数は多く、多岐にわたる。こうした団体はさまざま

なプロジェクトを展開し、旧統一協会とは異なる様相を呈している。実体を知らずにイベントに参加し、気がついたときにはすでに旧統一協会に入会していたという事例が多くある。

旧統一協会の教義は、聖書を独自に解釈したものであり、人類史を、この世に神の支配を取り戻す（復讐）の歴史と捉える。その経典を「原理講義」という。

「創世記」に記された原罪の由来は、「原理講義」の「堕落論」の中の、エバと堕天使ルーシエル（サタン）との霊的墮落、つまりエバが堕天使ルーシエル（サタン）と性交して汚れ、自分の犯した行為に恐ろしくなったエバはアダムを誘惑して性交を行ないアダムも汚れ、二人とも罪人（原罪）となった。以来、この原罪（人類が罪人となった原点）が「血統」「遺伝」を通じて全人類に連綿と伝わってき